

神戸大学(六甲台2)総合研究棟(農学系)改修施設整備等事業

要求水準書

(修正部分のみ添付)

平成17年7月11日

国立大学法人 神戸大学

修正箇所は赤字にて記載しています。

5. 各スペースの標準要求水準

【資料4】各室要求仕様に特記無き場合は下記(1)～(9)の標準要求水準に準ずるものとする。

(1) 一般事務スペース

用途

- ・農学部の事務管理運営を行うための拠点となるスペース

要求水準

面積	資料4 参照	室数	資料4 参照	天井高	2.65m 以上	床設計 荷重	3,000N/m ² 以上
内装等	床 : O A フロア (H=50)、タイルカーペット 壁 : 石膏ボード下地 EP 塗装等 (間仕切壁は建築基準法の防火性能を有すること。) 巾木 : ビニル巾木 柱 : R C 下地 EP 塗装等 天井 : 化粧石膏ボード等	採光	要				
		換気	要				
		空調	要				
電源設備	照明用・コンセント用電力 70VA/m ² (コンセントは適切な間隔で壁及び床に設置する)						
照明設備	適切な室内照度 (600lx 以上) を確保する。						
給排水設備	洗面器を適宜設置する。						
電話	電話コンセントまでの配線を行う。						
情報設備	CPU 端末コンセントの取り付けと配線を行う。						
室内環境	一般的な快適環境を確保する。						
その他	間仕切り等について、フレキシビリティに配慮する。						

補足事項

- ・換気 : 空調換気扇による機械換気とする。
- ・空調 : 一般空調とする
- ・室内環境 : 夏期 : 乾球温度 26 程度、冬季 : 22 程度 湿度は成り行き。

(2) 研究・セミナー室スペース

用途

- ・教員や大学院生等が研究を行うためのスペース

要求水準

面積	資料4 参照	室数	資料4 参照	天井高	2.65m 以上	床設計 荷重	3,000N/m ² 以上
内装等	床 : ビニル床タイル張等 壁 : 石膏ボード下地 EP 塗装等又は、RC下 地 EP 塗装等 (間仕切壁は建築基準法の防火性 能を有すること。) 巾木 : ビニル巾木 柱 : RC下地 EP 塗装等 天井 : 化粧石膏ボード等					採光	要
						換気	要
						空調	要
電源設備	照明用・コンセント用電力 70VA/m ² (コンセントは適切な間隔で壁に設置する)						
照明設備	適切な室内照度 (600lx 以上) を確保する。						
給排水設備	洗面器を適宜設置する。						
電話	電話コンセントまでの配線を行う。						
情報設備	CPU 端末コンセントの取り付けと配線を行う。						
室内環境	一般的な快適環境を確保する。						
その他							

補足事項

- ・室の利用人数は、教員 3 ~ 4 人 + 共同研究員 5 ~ 20 人を目安とするが、研究プロジェクトにより流動的である。
- ・机の配置やパーティション等、研究内容に応じて多様なレイアウトパターンに対応できる計画とする。
- ・空調換気扇による機械換気とする。
- ・空調は一般空調とする。
- ・室内環境は夏期：乾球温度 26 程度、冬季：22 程度 湿度は成り行きとする。

(3) 実験室スペース

用途

教員や大学院生等が実験研究を行うためのスペース

要求水準

面積	資料4 参照	室数	資料4 参照	天井高	-	床設計 荷重	3,000N/m ² 以上
内装等	床 : ビニル床シート (目地溶接) 張等 壁 : 石膏ボード下地 EP 塗装等又は、RC下 地 EP 塗装等 (間仕切壁は建築基準法の防火性 能を有すること。) 巾木 : ビニル巾木 (目地溶接) 等 柱 : RC下地 EP 塗装等 天井 : コンクリート打放し (最上階のみ化粧石 膏ボード等による断熱考慮)					採光	要
						換気	要
						空調	要
電源設備	照明用・コンセント用電力 150VA/m ² (コンセントは適切な間隔で壁に設置する)						
照明設備	適切な室内照度 (600lx 以上) を確保する。						
給排水設備	実験排水設備と要求に応じて生活排水設備を設置する。						
電話	電話コンセントまでの配線を行う。						
情報設備	CPU 端末コンセントの取り付けと配線を行う。						
室内環境	一般的な快適環境を確保する。						
その他	安全性に十分配慮する。						

補足事項

- ・ 室の利用人数は、教員 3 ~ 4 人 + 共同研究員 5 ~ 20 人を目安とするが、研究プロジェクトにより流動的である。
- ・ 換気は空調換気扇による機械換気とする。
- ・ 一般空調は下記の条件とする。
 - ア．熱源 : 電気・都市ガス
 - イ．熱媒体 : 新冷媒・水など
 - ウ．方式 : 特に問わない
 - エ．温度条件 : 夏 26 程度 、 冬 20 程度
 - オ．湿度条件 : 成り行き
 - カ．運転方法 : 個別スイッチ (研究室ゾーンによる一括停止を可能とする)
: 冷暖切替が部屋毎で行えることとする
 - キ．清浄度 : 浮遊粉じん 0.15 mg/m³ 以下
 - ク．その他 : 屋上など機器位置は耐荷重の範囲内で採用可能とする。

- ・特殊空調は一般空調の条件より精度を高めた条件設定とし、事業範囲外とする。

例として

ア．P1,P2,P3 実験室などのバイオ関連施設

イ．クリーンルーム

ウ．恒温恒湿室・低温室

エ．予備機又は24時間運転

ただし【資料4】にて指定する低温室・恒温室は事業範囲内とする。

- ・ドラフト排気については排気ファン及び機器最寄りまでの排気ダクトは事業範囲内とし、実験機器への接続は事業者設置のドラフトチャンバーは接続まで、大学側設置のドラフトチャンバーは最寄りまで供給し、接続は大学側工事とする。
- ・ドラフト排気等の排気においてエアバランス確保のための給気装置は熱処理も含めて事業者設置のドラフトチャンバー系統は接続まで、大学側設置のドラフトチャンバー系統は最寄りまで供給し、接続は大学側工事とする。
- ・給排水の接続配管は機器・器具最寄りまでの導きとし、事業者設置の給湯器やドラフトチャンバーは接続まで、大学側設置の給湯器・実験機器・ドラフトチャンバーなどは最寄りまで供給し、接続は大学側工事とする。ただし洗面器については接続までを事業範囲とする。
- ・都市ガスの接続配管は機器・器具最寄りまでの導きとし、事業者設置の給湯器やドラフトチャンバーは接続まで、大学側設置の給湯器・実験機器・ドラフトチャンバーなどは最寄りまで供給し、接続は大学側工事とする。
- ・特殊ガス配管・真空配管・圧縮空気配管はすべて事業範囲外とする。ただしスペース確保は事業者側工事。ガスボンベ集合装置、真空ポンプ、コンプレッサー等の本体と設置はすべて事業範囲外とする。

(4) 学生実験スペース

用途

教員や大学院生等が学生実験を行うためのスペース

要求水準

面積	資料4 参照	室数	資料4 参照	天井高	-	床設計 荷重	3,000N/m ² 以上
内装等	床 : ビニル床シート (目地溶接) 張等 壁 : 石膏ボード下地 EP 塗装等又は、RC下 地 EP 塗装等 (間仕切壁は建築基準法の防火性 能を有すること。) 巾木 : ビニル巾木 (目地溶接) 等 柱 : RC下地 EP 塗装等 天井 : 化粧石膏ボード等					採光	要
						換気	要
						空調	要
電源設備	照明用・コンセント用電力 150VA/m ² (コンセントは適切な間隔で壁に設置する)						
照明設備	適切な室内照度 (600lx 以上) を確保する。						
給排水設備	実験排水設備と要求に応じて生活排水設備を設置する。						
電話	電話コンセントまでの配線を行う。						
情報設備	CPU 端末コンセントの取り付けと配線を行う。						
室内環境	一般的な快適環境を確保する。						
その他	安全性に十分配慮する。						

補足事項

- ・ 室の利用人数は、教員 3 ~ 4 人 + 学生 20 ~ 40 人を目安とするが、学生実験内容により流動的である。
- ・ 換気は空調換気扇による機械換気とする。
- ・ 空調方式は一般空調とする。
 - ア．熱源 : 電気・都市ガス
 - イ．熱媒体 : 新冷媒・水など
 - ウ．方式 : 特に問わない
 - エ．温度条件 : 夏 26 程度、冬 20 程度
 - オ．湿度条件 : 成り行き
 - カ．清浄度 : 浮遊粉じん 0.15 mg/m³ 以下
 - キ．その他 : 屋上など機器位置は耐荷重の範囲内で採用可能とする。

(5) 教室・講義スペース

用途

- ・講義を行うためのスペース

要求水準

面積	資料4 参照	室数	資料4 参照	天井高	3.0m 以上	床設計 荷重	3,000N/m ² 以上
内装等	床 : ビニル床タイル張等 壁 : 石膏ボード下地 EP 塗装等又は、RC下 地 EP 塗装等 (間仕切壁は建築基準法の防火性 能を有すること。) 巾木 : ビニル巾木等 柱 : RC下地 EP 塗装等 天井 : ロックウール化粧吸音板張等					採光	要
						換気	要
						空調	要
電源設備	照明用・コンセント用電力 50VA/m ² (コンセントは適切な間隔で壁に設置する)						
照明設備	適切な室内照度 (600lx 以上) を確保する。						
給排水設備	洗面器を適宜設置する。						
電話	電話コンセントまでの配線を行う。						
情報設備	CPU 端末コンセントの取り付けと配線を行う。						
室内環境	一般的な快適環境を確保する。						
その他							

補足事項

- ・空調換気扇による機械換気とする。
- ・空調は一般空調とする。
- ・室内環境は夏期：乾球温度 26 程度、冬季：20 程度 湿度は成り行きとする。
- ・教室・講義スペースに設置されている視聴覚設備等で、改修の際、支障となるものについては事業者にて一時撤去し、改修後現状復旧するものとする。
- ・室内照明は、部屋の隅まで十分な照度が得られるように留意する。

(6) 多目的会議室スペース

用途

- ・会議用であるが、多目的に使用できるスペース

要求水準

面積	資料4 参照	室数	資料4 参照	天井高	2.65m 以上	床設計 荷重	3,000N/m ² 以上
内装等	床 : ビニルシート張等 壁 : 石膏ボード下地 EP 塗装等又は、RC下 地 EP 塗装等 (間仕切壁は建築基準法の防火性 能を有すること。) 巾木 : ビニル巾木等 柱 : RC下地 EP 塗装等 天井 : ロックウール化粧吸音板張等					採光	要
						換気	要
						空調	要
電源設備	照明用・コンセント用電力 50VA/m ² (コンセントは適切な間隔で壁に設置する)						
照明設備	適切な室内照度 (600lx 以上) を確保する。						
給排水設備	洗面器を適宜設置する。						
電話	電話コンセントまでの配線を行う。						
情報設備	CPU 端末コンセントの取り付けと配線を行う。						
室内環境	一般的な快適環境を確保する。						
その他							

補足事項

- ・空調換気扇による機械換気とする。
- ・空調は一般空調とする。
- ・室内環境は夏期：乾球温度 26 程度、冬季：22 程度 湿度は成り行きとする。
- ・多目的会議室スペースに設置されている視聴覚設備等で、改修の際、支障となるものについては事業者にて一時撤去し、改修後現状復旧するものとする。
- ・室内照明は、部屋の隅まで十分な照度を得られるように留意する。

(7) 便所スペース

用途

- ・ 便所用スペース

要求水準

面積	資料3 参照	室数	資料4 参照	天井高	2.4m 以上	床設計 荷重	1,800N/m ² 以上
内装等	床：ビニル床シート（目地溶接）張等 壁：陶器質タイル等 巾木：ビニル巾木（目地溶接）等 天井：ロックウール化粧吸音板張等					採光	要
						換気	要
						空調	-
電源設備	照明用・コンセント用電力 50VA/m ² （コンセントは適切な間隔で壁に設置する）						
照明設備	適切な室内照度(300lx)を確保する。センサーによる自動点滅とする。						
給排水設備	衛生器具を設置する。						
室内環境	有効な換気を行う。						
その他	快適な空間となるよう配慮する。						

補足事項

- ・ 器具の仕様は別添資料【資料5】衛生器具の型式 を基本とする。
- ・ 女子便所にはパウダーコーナーを設ける。

(8) 共用スペース

用途

- ・階段、廊下等のスペース

要求水準

面積	資料3 参照	室数	-	天井高	2.4m 以上	床設計 荷重	3,000N/m ² 以上
内装等	床：ビニル床シート張等 壁：EP 塗装等（間仕切壁は建築基準法の防火性能を有すること。） 巾木：ビニル巾木等 天井：化粧石膏ボード等					採光	要
						換気	-
						空調	-
電源設備	照明用・コンセント用電力 30VA/m ² （コンセントは適切な間隔で壁に設置する）						
照明設備	適切な室内照度（300lx）を確保する。						
電話・情報設備	なし						
その他	オープンな空間とする						

補足事項

- ・実験室フロアの廊下に法令に基づき、緊急用シャワーを設ける。